

よかところ通信



2008年9月新米号

O2Farm【オーツーフーム】 大津励志+耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 589
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: o2farm@aso.ne.jp
O2FarmWeb : www.aso.ne.jp/reisi
バックナンバーID = o2farm



皆さん、お待たせしました。新米です！！耕太にとっては6度目の収穫。そして初めての豊作です！「たっぷり施した堆肥と、夏の天気良かったおかげです」と耕太。牛さん、お天道様ありがとうございます！！そして無事に収穫ができて良かった。稲刈りが終わっても、ワラを牛のエサにするために乾かして運んだり、その他諸々の片づけをしたりとやることはありますが、まずはホッと一息。耕太の顔に安堵の色が浮かびます。よその稲刈りを請け負っている励志の方は、台風の接近もあり、まだまだ厳しい表情。それでは、稲刈り前後の様様をご報告します。

ほんの数週間前まで青かった穂が、9月に入って間もなくすると黄金色になります。こうなると、次なる敵はカメムシなどの害虫やスズメ、そしてイノシシ。去年からわざわざ川を渡ってまで山から田んぼを荒らしに来るようになったイノシシは、食べるだけでなく踏み荒らすので被害が大きいのです。今年も山に近い棚田で被害が発生しました……。せつ

かく実ったお米をこれ以上やられてなるものか！お腹がすいているイノシシも必死なら、対するこちらも必死。電気が通るヒモを張り巡らせ進入を防ぎます。一方スズメのほうは...、あまり打つ手がありません。1羽1羽は小さくても、群でやってきてはお米をつつくので侮れません。それにしても、野生動物はお米が熟す時期をよく知っているものですね。敵ながらあっぱれ。感心してしまいます。

稲刈り直前まで、草との戦いは続きました。先月号でもお伝えしたヒエ。ヒエの穂を放っておくと、田んぼにタネが散らばってしまいます。たまたま遊びに来ていた伯母さんに生後3ヶ月の讚太郎を預け、耕太と2人でいざ出陣。黄金に輝く田んぼの中で赤い作業服が映えていますね（笑）思わずパチリ。「おいおい、さぼってないでヒエも取ってくれよお」と耕太。汗だくになりながら、結局2日かかりでヒエ取り作業に励みました。今年のがんばりが来年に跳ね返ってくるのです。

私が育児中で野良仕事ではほぼ戦力外なので、今年は熊本市に住む伯父さんに稲刈り作業を手伝ってもらいました。柔道の先生だった体育会系の伯父さんは、定年退職したてでとにかく元気。機械で稲刈りしやすいように四隅を鎌で刈ったり、畦草を切ったりと、次から次と動いてくれます。あっぱれ団塊世代！





コンバインで刈ること数十分。タンクからモミを出す時が「よし、できた」と感じる瞬間です。トラックの荷台に溜まっていくモミを両手ですくうと、ずっしりとくる感触がたまりません。モミの状態を確認して、思わずにんまり。百姓冥利につきますね。そのまま食べてみたくなりますが、まだまだ。これを乾燥施設で乾燥させ、モミ殻をはずせば玄米のできあがり。さらに精米すると白米のできあがり。刈り取ってから口にするまで数日はかかります。さぁ精米して炊き上げた新米を神棚にも供え、いよいよ試食です…うーん、うまいっ！手前味噌ですみません（笑）。



子供たちの成長についても少し。先月の精米が終わるとすぐに耕太は東京へ出張。農林漁業金融公庫が主催する座談会に呼ばれたためです。そちらの内容はともかく、母親の私は行かないのに、「僕も行きたい」と言い出した2歳半の次男坊・連蔵（れんぞう）。「一人しか行けない」という条件に、長男坊の桔平（きっぺい）は「お母さんとお留守番する」とあっさり譲るではありませんか。双子といえ

ども、ずいぶん志向が違うものです。翌日リュックを背負い、意気揚々とお父さんと一緒に飛行機に乗り込む姿を見送って、ああ成長したものだと思無量。たった1泊でしたが、おばあちゃんの家で泊まった連蔵は、少し大人の顔になって帰ってきたかな？マイペースな三男・讃太郎（さんたろう）は生後百日を迎え、「お食い初め」のお祝いをしました。雨の中、傘を投げ捨てカッパをビショビショにしながら遊ぶ子供たち。風邪をひかないか心配な私たち…。健康第一、毎日賑やかなO2ファームの初秋です。

新米の味はとにかく格別！まだ水分が多いため、水を若干控えめにすると、一粒一粒がたつように炊きあがります。お米以外にもおいしいものが多い秋。食欲の秋を堪能してくださいね。どうぞお元気で。

